

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

本校には 1200 名を超える児童が本校(4 学年)、分校(2 学年)に分かれて在籍している。大阪市でも有数の大規模校であるにもかかわらず、運動場は中規模校と同程度の広さしかなく、教室内も学年ごとの定員いっぱいの児童が教室での活動を余儀なくされている状況である。校内の児童人口密度が高いことに加え、校舎間の移動、校舎から講堂への移動にあたっては、一般道路を横断せざるを得ない構造になっており、学校環境の側面から考えたとき、児童の精神的ストレス度合は他の小学校児童と比べて高いといえる。そのことの弊害として、ケガや、児童間のいざこざをはじめとする生活指導上の問題発生が比較的多い状況がある。この解消にあたっては、単に「規則遵守の指導の徹底」だけでは不十分であり、児童の規範意識の醸成に向け、道徳的な判断力等の育成、自他を尊重する態度の形成、危機回避意識の育成を図ることが重要と考える。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

本校の児童は、教職員の熱心な授業研究により、学習に対して意欲的に取り組むことができており、学力については全国学力学習状況調査(国語、算数)においては全国平均を、大阪市の学力経年調査(国語、社会、算数、理科)においては大阪市平均を上回る成績を残してきている。しかし、学年によっては、また、教科によっては、大きく大阪市平均を上回るものもあるが、僅差で上回っているものもある。児童の学力向上にあたっては、教員の研究研修は欠かすことはできないものであり、とりわけ、児童の実態(理解度、関心度等)を踏まえ、児童が意欲的に取組み、「わかる・できる」授業を提供していくかなければならないと考える。そのためには、学習指導要領の改訂内容をふまえ、「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」をテーマにした全学年による算数の研究をはじめ、指導の充実や授業力の向上および初任者若年者育成等、授業研究を軸とした校内研修を充実させていく必要性がある。また、授業内容に応じて、ICT 機器を活用し、児童一人一人の能力や特性に応じた指導を充実させ、授業の質を向上させていく必要性もあると考えている。

体力の向上にあたっては、この 4 年間(平成 25 年度～28 年度)に「パワーアップタイム」の創設、体育授業における運動量の確保等、全校を挙げての取組みを行ってきた結果、前述したように一人当たりの運動できる場所は他校と比べて圧倒的に少なく、地域にも運動できる場所もないにもかかわらず、「全国体力・運動能力、運動習慣調査」における全国平均得点、大阪市平均得点との差は大いに縮小してきた。今後も体育的活動の工夫、体育授業の改善をさらにはかっていくことにより、体力の向上を図っていく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- あらゆる教育活動を通して、「いじめ」事象の未然防止に努めるとともに、発生したいじめ事象については、全教職員が一丸となって解決に取り組み、その解決への取組みを100%にするとともに、各年度の解消率を95%以上にする。
- 4年間「学校のきまりを守る」取組みを継続して行うことで、平成32年度の「学校のきまり・規則を守っていますか」という項目の肯定的反応の比率を90%以上にする。
- 暴力行為についてはいかなる場合でもゆるされないことを徹底指導し、平成32年度の校内における暴力行為を平成28年度の件数の4分の1以下にする。
- 平成28年度の不登校割合を平成32年度には半減させる。
- あらゆる機会を通して、自分のよさや友達のよさについて考えさせる取組みを通して、平成32年度には「自分には何かよいところがありますか」という項目に対してはっきりと「いいえ」と回答する割合を3%以下とする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- わかりやすい授業をめざして授業展開の工夫等に取り組み、平成32年度までの学力経年調査における標準化得点をすべての対象学年（3年生以上）のすべての教科において、大阪市の平均を3ポイント以上上回る。
- 体育授業、体育的活動、遊び時間の工夫を行うことにより、平成32年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計得点を大阪市平均を男女ともに上回るようにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 88%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ・学校で実施している学校アンケートの「自分にはよいところがありますか」の項目について、「いいえ」と答えた児童の割合を 4%以下にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- ・小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- ・平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50m 走の平均の記録を、前年度より 0.5 ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- ・学校で実施している学校アンケートの「学校の勉強はわかりますか」の項目について肯定的回答の割合を全体の 90 %以上にするとともに、「はい」の割合を全体の 60 %以上にする。
- ・平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、平均の記録を全国の平均の記録よりも 1 種目以上上回る。

(様式 2)

大阪市立常盤小学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| 評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった | |
|---|------|
| 年度目標 | 達成状況 |
| <p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。 ・小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 88% 以上にする。 ・年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で実施している学校アンケートの「自分にはよいところがありますか」の項目について、「いいえ」と答えた児童の割合を 4% 以下にする。 | |
| <p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【施策番号 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 災害発生時においても自ら危険を回避し自らの命を守る行動をとることができるよう、地域防災との連携による実質的な防災教育を推進する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内実施の避難訓練を年間 3 回以上行う。 ・家庭や地域と連携した避難訓練や防災活動を年間 3 回以上行う。 <p>取組内容②【施策番号 2 道徳心・社会性の育成】 自らを律しつつ、他者とともに協調し、他者を思いやる心や感動する心を育てるため計画的な道徳授業の実践を行う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間 35 時間以上の授業時数を確保し、各学年で定められる全ての内容項目について授業を行う。 ・道徳科研修会を年間 2 回以上実施する。 <p>取組内容③【施策番号 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 不登校をはじめとし様々な課題を有する児童が安心して登校できる学校づくりを進める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に不登校児童を対象とした連絡協議会を立ち上げ、年間 3 回以上の連絡会を開 | 進捗状況 |

催すとともに、連絡協議会の充実を図る。

- ・不登校児童をはじめ様々な課題を有する児童が安心して過ごすことのできる「ほっとスペース」を校内に設けその運用を行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標について

学校の年度目標について

取組内容①について

取組内容②について

取組内容③について

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立常盤小学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| 評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった | |
|---|------|
| 年度目標 | 達成状況 |
| <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。 ・小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。 ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 ・平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50 m走の平均の記録を、前年度より 0.5 ポイント向上させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の学校の児童アンケートの「学校の勉強はわかりますか」の項目について肯定的回答の割合を全体の 90% 以上にするとともに、「はい」の割合を全体の 60% 以上にする。 ・平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、平均の記録を全国の平均の記録よりも 1 種目以上上回る。 | |
| <p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【施策番号 5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 基礎・基本を確実に身に付け、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を身につけさせる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で実施している学校アンケートの「学校の勉強はわかりますか」の質問において、全学年で肯定的な回答の割合を 90% 以上とする。 ・宿題や家庭学習の内容を検討し計画的・継続的に提供する取組等を通して、学力経年調査の質問紙調査「学校の授業以外に、ふだん、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問において、全学年で 30 分以上と回答する児童の割合を 85% 以上とする。 ・3 ~ 6 学年の算数科と国語科の選択した単元において習熟度別少人数指導を実施する。 | 進捗状況 |

取組内容②【施策番号 5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】

「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」をテーマとした算数科の研究活動を進め日常の授業改善に生かす。

初任者若年者の育成を図るための校内研修を充実させる。

指標

- ・年間 6 回以上の授業研究を行うとともに、全教員が 1 回以上の授業研究もしくは公開授業を行う。
- ・初任者若年者を対象とした拡大初任者部会を年間 6 回以上実施する。
- ・実技を伴う授業研修会を年間 4 回以上実施する。

取組内容③【施策番号 7 健康や体力を保持増進する力の育成】

将来にわたって、たくましく生きるための健康習慣や体力を養う。

家庭と連携し正しい食習慣・生活習慣の確立を図る。

指標

- ・栄養指導、食教育、委員会活動等の取組を通して、学力経年調査の質問紙調査「朝食を毎日食べていますか」の質問において、調査実施の全学年について肯定的な回答の割合を 90% 以上とする。
- ・昼の時間帯のパワーアップタイムの日常的な実施と、時期に応じた駆け足週間や縄跳び週間等の実施を行う。
- ・放課後の校庭開放を実施していく。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標について

学校の年度目標について

取組内容①について

取組内容②について

取組内容③について

次年度への改善点